

あわれみ深い者は幸いです

マタイの福音書 5章7節

はじめに

私がウェルカム・サンデーで説教をする時には、イエス様が語られた「幸せ」についてお話することにしています。

イエス様は、弟子たちや群衆に向かって、「**あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです**」と言われました。つまり、人に対してあわれみ深い人は、やがて神様からあわれみを受けるようになる、だから人に対してあわれみ深い人は今、幸せだと言われるのです。

イエス様が幸せだと言われた「あわれみ深い人」というのは、どういう人でしょうか。一般的に「あわれむ」という言葉は、困難の中にある人に同情することと理解されているように思います。しかし同情というのは、時には人を余計に惨めにすることがあります。そのため、「同情なんてされたくない」と言うのをよく聞きます。人を「あわれむ」というのは、場合によっては、人を上から見下しているような印象を与えます。それゆえ、人を「あわれむ」というのは、高慢で独り善がりのように思えて、人から「あわれまれる」ということに抵抗を感じることもあります。

イエス様が言われた「あわれみ深い人」というのも、そのように人を上から見下し、高慢で独り善がりの同情をするような人を言っているのでしょうか。

1. 神の「あわれみ深さ」

イエス様はある時、「**あなたがたの父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くになりなさい**」(ルカ 6:36)と言われました。イエス様が言われた「あわれみ深さ」というのは、神様のような「あわれみ深さ」です。神様のような「あわれみ深さ」で、人に対して「あわれみ深く」ありなさいと言われるのです。

では神様の「あわれみ深さ」とは、どのようなものなのでしょう。聖書の中で、神様の「あわれみ深さ」が最もよく表れているのは、神様が私たち人間を救うために、イエス様をこの世に遣わされたことです。

私たち人間は、神様との交わりに生きる存在として、神様に造られました。しかし私たちの最初の先祖であるアダムとエバが、神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、私たち人間は神様との交わりを失いました。そのため、生まれた時から人間性全体に罪の性質を持つようになり、人生のあらゆる苦しみや悲しみを経験するようになりました。愛が冷えて人々が争うようになり、貧富の格差が生まれ、病気や障がいに苦しみ、自然災害が起こる

ようになりました。またすべての人間が肉体の死を経験するようになり、死後には永遠の地獄の刑罰を受けるようになりました。これが、神様との交わりを失ったすべての人間が辿るべき運命でした。

しかし神様は、私たちを見捨てず、私たちをそのような運命から救おうとされたのです。神様は、御自身のひとり子であるイエス様を私たちのもとに遣わし、イエス様を通して御自身の「あわれみ」を示されたのです。

イエス様は、多くの病人や障がいを持つ人々を癒し、貧しい人々や社会的に疎外されている人々と共に過ごし、彼らをお愛されたのです。そして私たちと神様の交わりを回復するために、十字架に架かり、自らの命を献げられたのです。イエス様の十字架の死は、私たちに代わって神様の裁きを受け、私たちの罪を償うためのものでした。

そして神様は、イエス様を信じるすべての者に、罪の赦しを与えて、御自身との交わりを回復し、永遠の地獄の刑罰から救われたのです。

2. 「あわれみ深い人」とは？

このように神様の「あわれみ」は、イエス様を通して私たちに示されました。イエス様を通して示された神様の「あわれみ」はまず、弱さを持つ人々を愛し、彼らに仕えることにおいて示されました。その意味で「あわれみ深い人」とは、弱さを持つ人々を愛し、彼らに仕える人と言えます。

もう一つ、イエス様を通して示された神様の「あわれみ」は、罪を赦すことにおいて示されました。神様の前に罪深い私たちを、イエス様の十字架の償いによって赦してくださいました。その意味で「あわれみ深い人」とは、人を赦すことができる人と言えます。

イエス様が言われた「あわれみ深い人」とは、①弱さを持つ人々を愛し仕える人、②人を赦すことができる人と言えます。

3. 「あわれみ深い人」になるために

では、私たちはどうしたらそのような「あわれみ深い人」になれるのでしょうか。

イエス様が「あわれみ深い人は幸いです」と言われた時の「あわれみ深い」（ギリシヤ語の「エレエーモン」）という言葉は、新約聖書の他の箇所にも一回しか出てきませんが、それが「ヘブル人への手紙」に出てきます。そこにはこうあります。「**神に関わる事柄について、あわれみ深い忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それで民の罪の宥めがなされたのです。イエスは、自ら試みを受けて苦しめられたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです**」(ヘブル 2:17-18)。

イエス様は、「あわれみ深い忠実な大祭司となるために、・・・すべての点で兄弟たちと同じようになられた」とあります。イエス様は、神様の「あわれみ」を私たちに示すため、またご自身が「あわれみ深い方」となるために、私たち人間と同じようになられたのです。イエス様は神のひとり子であり、神御自身でした。しかし、私たちに「あわれみ」を示し、「あ

われみ深い方」となるために、私たち人間と同じようになられて、私たち人間と同じように人生の苦しみや悲しみを経験されたのです。貧しい生活をされ、愛する人を失う悲しみを経験し、人から妬まれ、裏切られ、死の苦しみやその恐怖を経験されたのです。それは、「あわれみ深い方」となり、私たちを人生の苦しみや悲しみから助け出すためです。

先ほど、「あわれむ」というと、人を上から見下し、高慢で独り善がりのようなものと思われることもあると言いました。しかしイエス様の「あわれみ」というのは、人を上から見下すようなものではありませんでした。むしろその逆で、人と同じようになり、同じように経験するものでした。つまりそれは、「共に生きる」ということでありました。

「あわれみ」を表す英語の言葉で、「compassion」という言葉があります。「con」は「共に」という意味で、「passion」は「情熱」という意味です。しかし「passion」は元々「苦しみ」を意味する言葉です。ですから「あわれみ」とは、上から人に何かを施すものではなく、「共に苦しむ」ことなのです。

イエス様が言われた「あわれみ深い人」というのは、弱さを持つ人々と同じようになり、同じような経験をし、彼らと「共に苦しむ」、彼らと「共に生きる」人のことを言うのではないかと思います。

しかし私たちは、弱さを抱える人と全く同じようにはなれないのも現実です。私たちが「あわれみ深い人」となるために、彼らの弱さを理解し、彼らと共に生きようと最善の努力をすることは大切なことだと思います。しかし彼らの病気や障がい、貧しさや寂しさ、苦しみや悲しみと全く同じような経験をすることは不可能です。

しかしある部分では、彼らと同じような経験をすることができるのです。それは自分も「あわれみを受ける」経験をすることです。「あわれみを受ける」経験をした人こそ、本当の意味で人をあわれみ、「あわれみ深い人」となることができるのではないかと思います。

しかし、ただ単に「あわれみを受ける」という経験をただでなく、「あわれみを受けた」ことが「本当にありがたかった」、その「あわれみを受けた」ことで人生が変わったという経験をした人こそが、本当の意味で人をあわれみ、「あわれみ深い人」になれるのだと思います。

イエス様はある時、たとえ話を話されました。ある王様に一万タラント（六千億円）の借金がある家来が、王様に返済を命じられました。しかしその家来が必死にあわれみを乞うたところ、王様は彼をかわいそうに思って、借金を全額免除してやりました。ところがその家来は、自分に百デナリ（百万円）の借金がある仲間にあわれみを乞われた時、その仲間を赦さず、牢屋に放り込んだのです。この噂を聞いた王様は、家来を呼びつけ、彼に怒りを燃やし、彼を牢屋に放り込んでしまったのです。

たとえ、あわれみを受けても、それを何とも思わず、本当にありがたいこととして受け止めなければ、人に対して「あわれみ深い人」にはなれないのです。

私たちには誰でも、神様からの「あわれみ」が与えられています。神様がイエス様を遣わし、十字架によって私たちの罪を償い、イエス様を信じる者は誰でも、すべての罪が赦され、

永遠の命が与えられるという「あわれみ」です。

この神様からの「あわれみ」を、私たちがどう受け止めるかで、私たちが「あわれみ深い人」になれるかどうかが決まってくるのです。私たちが神様の「あわれみ」にそれほど感謝もせず、当たり前のように受け取っているだけなら、「あわれみ深い人」にはなれません。しかし神様の「あわれみ」の偉大さに感動して、心から感謝している人は、「あわれみ深い人」になれるのです。

「あわれみ深い人」というのは、人を赦すことができる人でもありました。自分のことを傷つけた人を赦すことができる人です。人を赦すことができる人も、赦される経験をした人だと思えます。しかし先ほどのたとえ話のように、赦されたことに感謝もせず、当たり前のように思っている人は、決して人を赦すことはできません。人を赦すことができる人は、赦されたことを心から感謝する人です。赦されたことを心から感謝する人は、自分の罪深さを痛感し、自分の力では償い切れないことを自覚している人です。自分では償い切れない罪を赦された人は、心から感謝して人生が変えられるのです。

私たちは、イエス様を信じることによって、すべての罪が赦されました。そのことをどれだけありがたく受け止めるかで、人を赦せる人になるかどうかが決まってくるのです。

私たちが「あわれみ深い人」になるかどうかは、神様からの「あわれみ」をどう受け止めるかに懸かっているのです。

おわりに

イエス様が言われた「あわれみ深い人」とは、①弱さを持つ人々を愛し仕える人、②人を赦すことができる人です。そして神様からの「あわれみ」を経験し、心から感謝して受け止めた人です。

しかし人に対して「あわれみ深く」あり続けることは、決して簡単なことではありません。多くの忍耐が必要でしょうし、人に理解されないことも、傷つけられることもあるでしょう。善意が踏みにじられるような経験をすることもあるでしょう。馬鹿馬鹿しくなることも、逃げ出したくなることもあるでしょう。

しかし神様は、私たちの「あわれみ」を確かに見ておられるのです。私たちが弱さを持つ人々と共に苦しみ、共に生きようと努力したことも、心が張り裂けるような思いで人を赦したこともすべて、見ておられるのです。そしてやがて、私たちが天国に迎えられる時、またイエス様が再び来られる時に、私たちに報いて、私たちに「あわれみ」を示してくださるのです。

私たちの「あわれみ」は、小さなものかもしれませんが、誰からも評価されないかもしれません。しかし神様が確かに見ておられ、必ず報いてくださるのです。だからこそ、どんな小さな「あわれみ」でも、もし私たちが誰かに示しているなら、私たちは今、幸せだと言えるのです。

天におられるあわれみ深い父なる神様。

あなたは私たちを愛し、私たちの救いのためにイエス様を遣わし、私たちに「あわれみ」を示してくださいました。私たちはその神様の「あわれみ」をどのように受け止めてきたでしょうか。しっかりと感謝して受け止めてきたでしょうか。私たちが「あわれみ深い人」に変えられるほど、ありがたく受け止めてきたでしょうか。

どうか私たちが益々「あわれみ深い人」となるために、あなたの「あわれみ」の偉大さを教えてください。あなたの「あわれみ」がどれだけ豊かで素晴らしいものかを教えてください。あなたの「あわれみ」を心から経験させてください。

私たちがイエス様のように、誰かに「あわれみ深く」あることができるようにしてください。人々の弱さを思いやり、彼らと苦しみを共にし、彼らと共に生きていくことができますように。自分のことを傷つける者たちを赦すことができますように。

たとえ「あわれみ深く」ある道が困難であったとしても、神様が確かに見ておられること、やがて私たちに報いてくださることを信じて希望を抱き、今幸せであることを喜んで歩めるようにしてください。

この祈りをあわれみ深いイエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。